米空軍ＲＱ－４（グローバル・ホーク）の展開について

令和７年８月
防衛省
外務省

米空軍グローバル・ホークの展開について

概　要

我が国周辺地域での情報収集、警戒監視及び偵察（ISR）活動を強化するため、グローバル・ホークの効果的な運用を最大限確保することを目的に、令和７年（２０２５年）9月の約１か月間、米空軍RQ-4（グローバル・ホーク）を三沢飛行場に一時的に展開いたします。

- 我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増す中、情報収集・警戒監視・偵察（ＩＳＲ）活動はますます重要。特に、優れたＩＳＲ能力を有する米軍との協力は極めて重要であり、２０１４年以降、米軍は無人偵察機（ＲＱ－４、ＭＱ－４、ＭＱ－９）を、日本に展開。
- 米軍は、２０２３年５月から米空軍ＲＱ－４（グローバル・ホーク）３機を横田飛行場に展開。ただし、これら３機は、２０２４年１０月より一時的にグアムに移動中。

展開計画

- 展開先：**三沢飛行場**
- 時期：**２０２５年９月の約１か月間**
- 機数：**数機**
- 人員：約１０名

RQ－４（グローバル・ホーク）

【実績と予定】

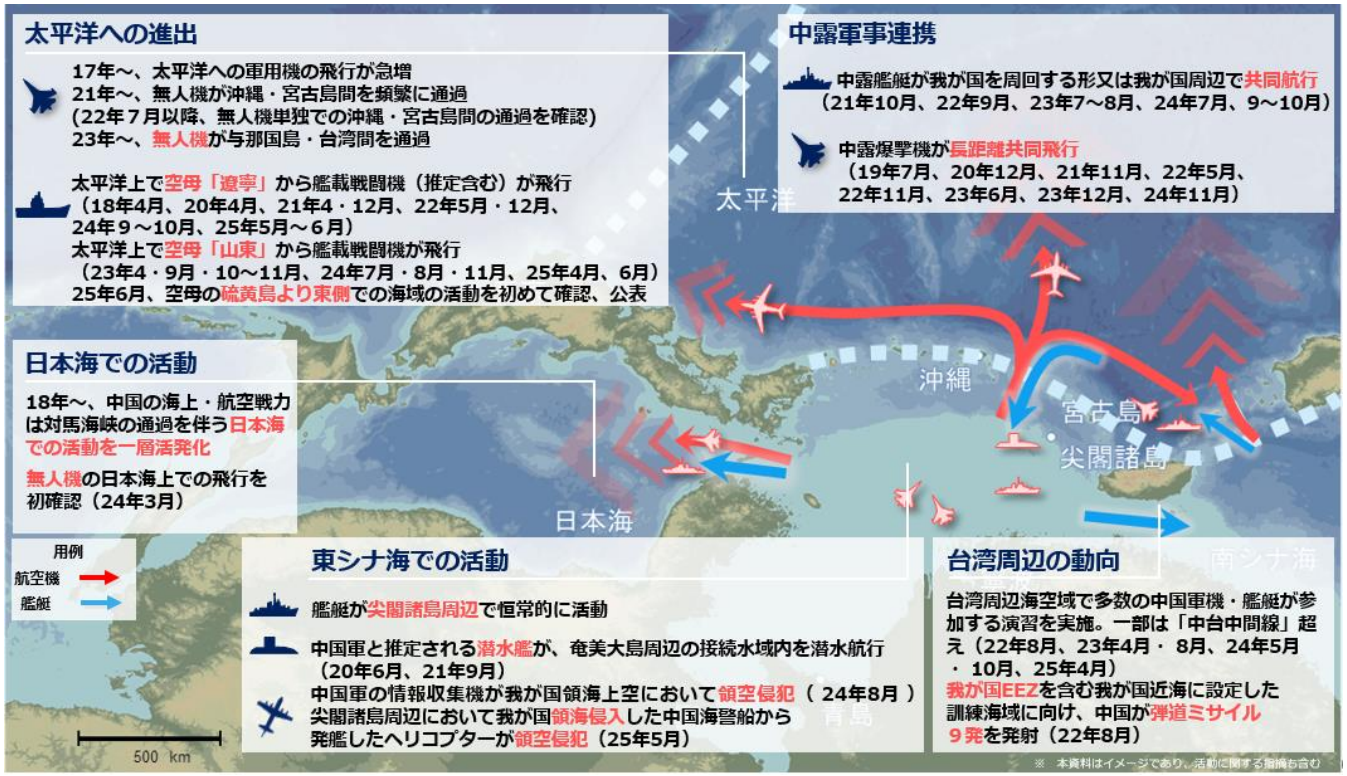
米空軍RQ-4（グローバル・ホーク）	米海軍MQ-4（トライトン）	米軍MQ-９
・2014年5月～10月　三沢 ・2015年7月～12月　三沢 ・2017年5月～10月　横田 ・2018年6月～10月　三沢 ・2019年8月～10月　横田 ・2020年7月～ 9月　横田 ・2021年5月～10月　横田 ・2022年5月～10月　横田 ・2023年5月～　横田	・2021年5月～10月　三沢 ・2022年7月～10月　岩国 ・2024年5月～10月　嘉手納 ・2025年４月～　嘉手納	・2022年11月～2023年11月　鹿　屋（空軍） ・2023年11月～　嘉手納（空軍） ・2024年8月～　嘉手納（海兵隊）

最近の我が国周辺海空域での各国等の動向

- 中国は、尖閣諸島周辺を含む東シナ海を含め、我が国周辺海空域での活動を急速に拡大・活発化。一方的な活動のエスカレーションも。
- 北朝鮮は「瀬取り」を含む違法な海上での活動を継続。
- ロシアと中国は東シナ海等において爆撃機による共同飛行を実施。

⇒このような安全保障環境の中、情報収集能力のより一層の強化が必要です。

中国の我が国周辺海空域での活動状況



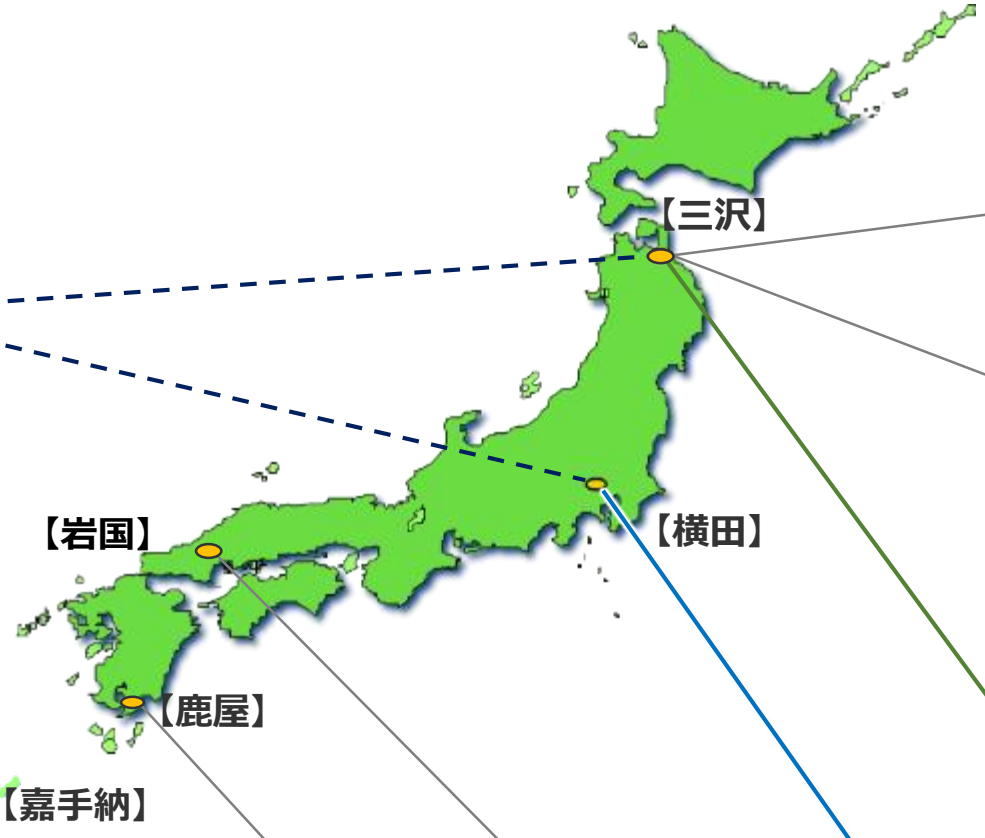
中国艦艇が尖閣諸島周辺で恒常的に活動

- 2023年3月、過去最長となる９２時間以上にわたって中国海警船が尖閣諸島周辺の領海に侵入

北朝鮮による「瀬取り」

日本における米軍無人機

無人機は、人的損耗を局限しつつ、長期連続運用が可能であり、情報収集等の手段として使用が一般化しています。



米海軍：嘉手納

MQ-4 トライトン
2024年５月～10月
2025年4月～

米空軍：嘉手納

MQ-9
2023年11月～

米海兵隊：嘉手納

MQ-9
2024年８月～

米海軍：三沢

MQ-4 トライトン
2021年5月～10月

米空軍：三沢

RQ-4 グローバル・ホーク
2014年5月～10月
2015年7月～12月
2018年6月～10月

（参考）航空自衛隊：三沢

RQ-4 グローバル・ホーク
2021年 配備

米空軍：鹿屋

MQ-9
2022年11月～2023年11月

米海軍：岩国

MQ-4 トライトン
2022年７月～10月

米空軍：横田

RQ-4 グローバル・ホーク
2017年、2019年、2020年
2021年、2022年
2023年5月～

【凡例】

海軍	海兵隊	空軍	自衛隊
展開中・予定		展開終了	

影響・安全性

展開による影響

- 展開機数は、**数機**である。
- グローバル・ホークは、長時間滞空可能（約３０時間）な無人機であり、**頻繁な離着陸が不要**。
- グローバル・ホークは、偵察用に開発された機体であり、**非武装のアセットである**。
- グローバル・ホークは、比較的小型の民間航空機に使用するジェットエンジンの派生型エンジンを使用していることから、戦闘機等に比べ、**周辺地域への騒音の影響は少ない**。
- 新規の施設整備の計画はない。

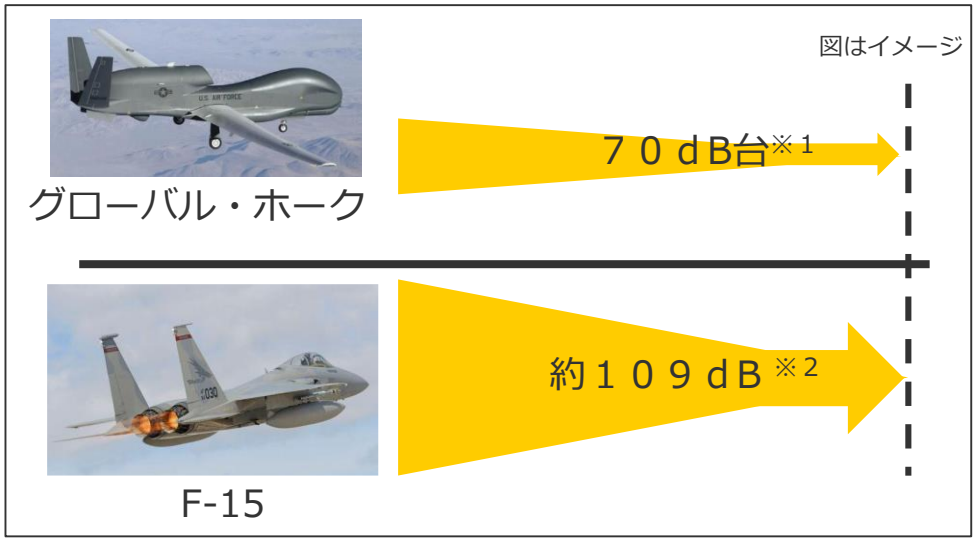
安全性

- 有人の航空機と同様、他の航空機との安全間隔を確保するため、**管制官の指示に従って飛行**。
- 万が一何らかの理由により通信が途絶した場合でも、機体は自律飛行により事前にプログラムされた飛行経路を飛行し、あらかじめ設定した飛行場に**自動的に着陸する機能を保持**。
- エンジンに故障が発生した場合においても、**バッテリーにより滑空可能**。
- グローバル・ホークの運用開始後、**これまで飛行に関連する重大な事故は発生していない**。

騒音について

- グローバル・ホークは、比較的小型の民間航空機に使用するジェットエンジンの派生型エンジンを使用していることから、戦闘機等に比べ、**周辺地域への騒音の影響は少ない**。
- 離着陸時の、**最大騒音レベル**は、**７０ｄＢ台**（三沢での実測値も７０ｄＢ程度）。

騒音比較



※１　航空自衛隊グローバル・ホークの騒音値（最大騒音レベル）を三沢飛行場の滑走路の西側の端に設置している航空機騒音自動測定装置により測定
※２　平成１９年那覇防衛施設局（当時）が計測

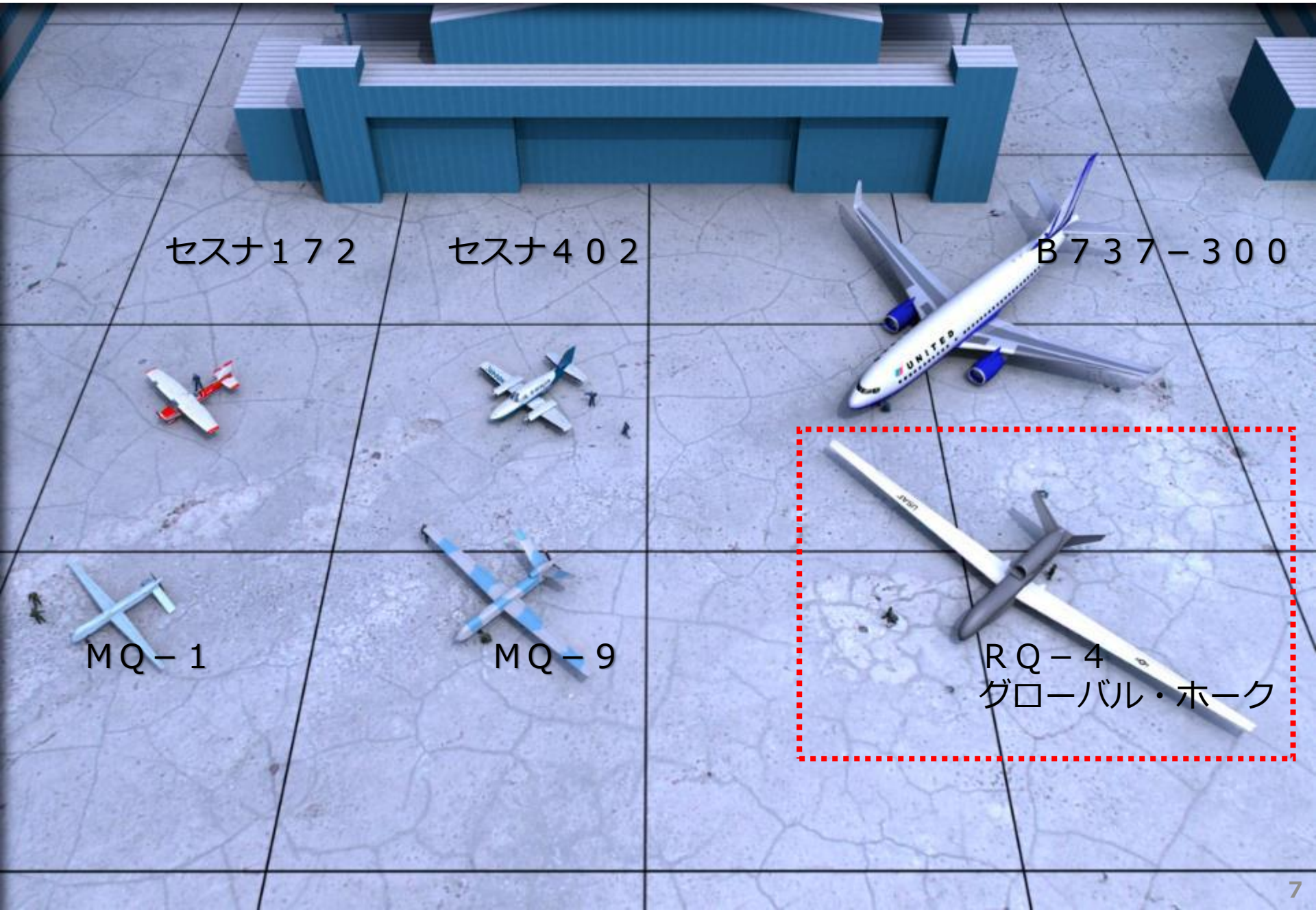
騒音の大きさの目安

騒音の大きさ	目　安
１１０	ロックコンサート 自動車の警笛（前方２m）
１００	電車通行時のガード下
９０	騒々しい工場内 怒鳴る声
８０	地下鉄電車内 バス車内 電話が聞こえないレベル
７０	騒々しい街頭 電話のベル 騒々しい事務所内
６０	静かな街頭 静かな乗用車内 普通の会話

ＲＱ－４と他の航空機との比較

機種名	RQ-4 グローバル・ホーク 	MQ-4 トライトン 	MQ-9 	F-15
全幅	約40m	約40m	約20m	約13m
全長	約15m	約15m	約11m	約19m
全高	約5m	約5m	約4m	約6m
最大離陸重量	約12t	約15t	約5t	約31t
運用速度	約570km/h	約590km/h	約330km/h	約3,000km/h
航続距離	約23,000km	約15,000km	約8,500km	約5,700km
滞空時間	約36時間	約30時間	約30時間	約5時間
運用高度	約15,000～20,000m	約15,000～17,000m	～約15,200m	～約19,800m
離着陸時騒音	70dB台※１	70dB台※２	約75dB※３	約109dB※４
初飛行	1998年	2013年	2001年	1972年

※１　航空自衛隊グローバル・ホークの騒音値（最大騒音レベル）を三沢飛行場の滑走路の西側の端に設置している航空機騒音自動測定装置により測定
※２　昨年、嘉手納飛行場で展開した際に沖縄防衛局が設置した航空機騒音自動測定装置により測定
※３　同型機であるＭＱ－９Ｂの実測値
※４　平成１９年那覇防衛施設局（当時）が計測

資料源：Jane’s Unmanned Aerial Vehicles and Targets Issue37、米空軍FACTSHEET、General Atomics Aeronautical System社パンフレット、 Northrop Grumman社パンフレット 、FAA Advisory Circular 36-3H 05/25/2012　等

無人機のサイズ比較